

2023 年 9 月 29 日

各位

名古屋市中区栄三丁目 33 番 13 号
株 式 会 社 中 京 銀 行



＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

株式会社中京銀行（頭取 小林 秀夫）は、株式会社マルダイスプリング（本社名古屋市中区、代表取締役 木村 好裕）と、＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結しましたので、お知らせいたします

当行は、これからもお客さまの多様化する資金調達ニーズに応え、SDGs の趣旨に賛同するお客さまとともに持続可能な社会の実現を目指してまいります。

記

1. 融資概要

契約締結日	2023 年 9 月 29 日（金）
融 資 金 額	200 百万円
融 資 期 間	10 年
資 金 使 途	運転資金

2. 株式会社マルダイスプリングの概要

本店所在地	名古屋市中区千代田 3 丁目 1 番 10 号
代 表 者	木村 好裕
事 業 内 容	スプリングの設計・開発及び製造販売 金属加工部品及びそれらの組立加工品の製造販売
設立年月日	1956 年 11 月 7 日
電 話 番 号	052-331-9261

3. 特定されたインパクトと測定する KPI（2030 年に向けた目標）

（1）働きがいのある職場環境づくり
①2030 年までに金属ばね製造技能士線ばね製造作業 1 級の資格を 2 名取得する
②2024 年までに健康経営優良法人の認証取得
③災害発生件数ゼロを目指す

(2) 環境に配慮した取り組みの推進
①2030 年 2 月期までに HV 車の保有割合を 50%にする (2023 年 2 月期の保有割合 : 40%) ②2030 年 2 月期までに工程内不良件数を 0 件にする (2023 年 2 月期の件数 : 8 件) ③ISO14001 の更新・維持
(3) 品質維持・向上による成長促進
①ISO9001 の更新・維持 ②2030 年 2 月期までに売上高を 70%増加させる (2023 年 2 月期比)

【記念盾贈呈式の様子】



株式会社中京銀行
東別院支店長 若松 平

株式会社マルダイスプリング
代表取締役 木村 好裕

4. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて

国際的な金融原則の枠組みに沿った融資商品で、お客さまの企業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響を包括的に分析・評価（以下、「インパクト評価」）します。インパクト評価により特定されたポジティブな影響の増大とネガティブな影響の低減に向けた取り組みに対して目標（以下、「KPI」）を設定し、モニタリングを実施することで、当該取り組みを継続的に支援いたします。

KPI の達成に向けて取り組む過程を対外的に発信することで、お客さまの社会的評価の向上が期待されます。

本商品では当行がインパクト評価とモニタリングを実施します^(※1)。

(※1) 当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体系は、株式会社格付投資情報センター（R&I）より、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブ・インパクト金融原則（PIF 原則）への適合についてセカンドオピニオンを取得しています。

以 上

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」評価書
～株式会社マルダイスプリング～

2023 年 9 月 29 日
株式会社中京銀行
営業推進部
ソリューション営業グループ

目次

はじめに	2
1. 企業概要	2
(1) 会社概要	
(2) 沿革	
(3) 認証取得一覧	
(4) ビジネスモデル図	
(5) 経営理念	
2. 事業内容	5
(1) 熟練スタッフと最新鋭の装備	
(2) きめ細やかな対応	
(3) 従業員育成の取組み	
3. ESG・SDGs の取組	8
(1) CO2 排出量削減に向けた取組み	
(2) 地域貢献	
(3) 働きがいのある職場環境の構築	
(4) 品質向上の取組み	
4. インパクトの特定	10
(1) バリューチェーン分析	
(2) インパクトマッピングによるインパクト分布	
(3) インパクト分布図	
①当社の川上における事業のインパクト	
②当社における事業のインパクト	
③当社の川下における事業のインパクト	
(4) 特定したインパクト	
(5) 国内のインパクトニーズ	
(6) 特定したインパクトに対する中京銀行の方向性との確認	
5. 測定する KPI	15
6. インパクト管理体制	17
7. モニタリング方法	17
8. 総括	17

はじめに

株式会社中京銀行は、株式会社マルダイスプリングの事業活動が「環境」・「社会」・「経済」に及ぼすインパクトを分析・評価しました。この分析、評価は、国際環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、中小企業に対するファイナンスに適用しています。

<融資条件概要>

融資形態	証書貸付
融資金額	200,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	10 年間

1. 企業概要

（1）会社概要

会社名	株式会社マルダイスプリング
設立年月日	昭和 31 年 11 月 7 日
資本金	10,000,000 円
代表取締役	木村 好裕
事業内容	スプリングの設計・開発及び製造販売 金属加工部品及びそれらの組立加工品の製造販売
本社所在地	名古屋市中区千代田三丁目 1 番 1 0 号
従業員数	17 名（2023 年 2 月末時点）
決算月	2 月

会社名	株式会社マルダイスプリング養老工場
設立年月日	昭和 63 年 7 月 8 日
資本金	10,000,000 円
代表取締役	木村 好裕
事業内容	スプリングの製造
本社所在地	岐阜県養老郡養老町沢田字堀川 470-1
従業員数	26 名（2022 年 6 月末時点）
決算月	6 月

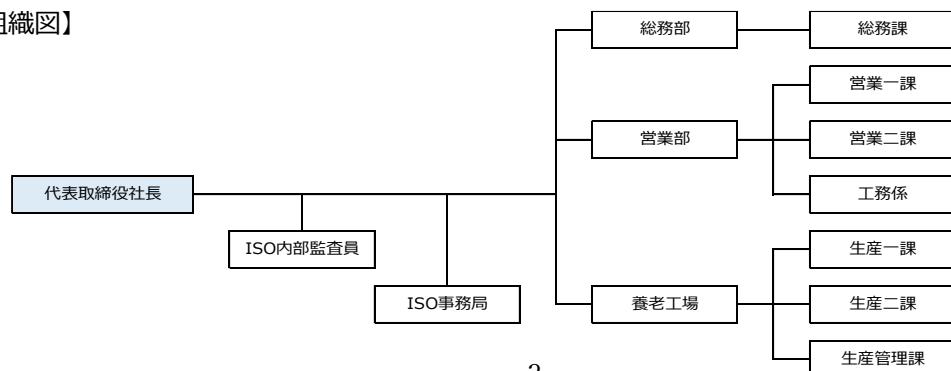
(2) 企業沿革

1951 年 8 月	木村スプリング製作所として名古屋市千種区今池町にて創業
1956 年 11 月	法人設立、株式会社 丸大スプリング製作所
1962 年 12 月	企業誘致により、岐阜県加茂郡川辺町に岐阜工場設立
1965 年 4 月	岐阜工場を法人設立、株式会社 マルダイススプリング岐阜製作所 (現:株式会社 アドバンテックマルダイ)
1967 年 5 月	本社移転 (名古屋市中区飴屋町)
1969 年 9 月	株式会社 マルダイススプリングに社名変更
1970 年 6 月	本社ビル建設し移転 (名古屋市中区飴屋町)
1988 年 7 月	養老工場開設 (岐阜県養老郡養老町押越)
2003 年 8 月	養老に新工場建設し移転 (岐阜県養老郡養老町沢田)
2004 年 4 月	国際品質保証規格 ISO9001 を認証取得
2005 年 3 月	国際環境規格 ISO14001 を認証取得
2006 年 7 月	本社ビル建設し移転 (名古屋市中区大井町)
2008 年 3 月	金属ばね製造技能士検定に 6 名合格
2010 年 6 月	第 5 回無担保社債発行 (三菱東京 UFJ 銀行)
2013 年 1 月	航空機分野進出
2016 年 12 月	本社移転 (名古屋市中区千代田)
2018 年 2 月	小島プレス工業 (株) 様より 6 年連続品質優良賞を受賞
2018 年 6 月	前代表取締役木村信行の逝去に伴い、前副社長秋江増一が代表取締役に就任
2021 年 2 月	SDGs 宣言
2021 年 5 月	代表取締役 木村好裕就任
2021 年 5 月	航空宇宙品質規格 JISQ9100 を認証取得

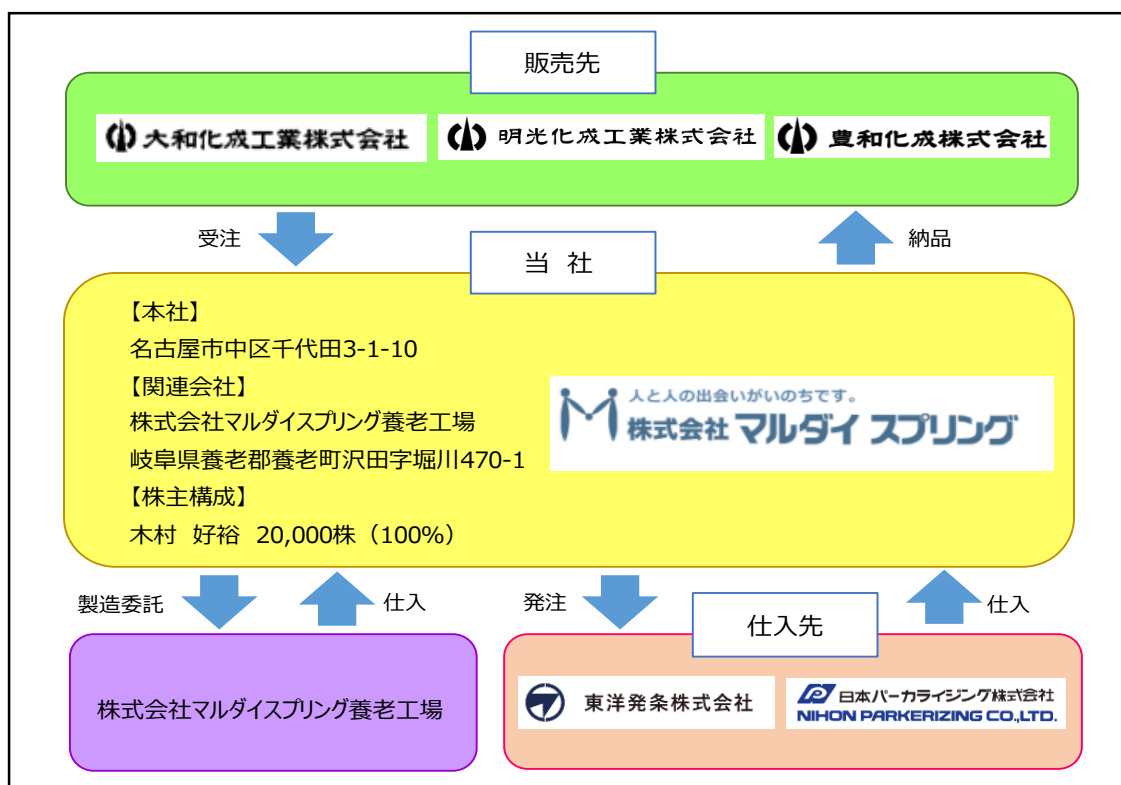
(3) 認証取得一覧

区分	認証名称	行政区分
品質マネジメント	ISO9001	(一社) 日本品質保証機構
品質マネジメント	JISQ9100	(一社) 日本品質保証機構
環境マネジメント	ISO14001	(一社) 日本品質保証機構

【組織図】



(4) ビジネスモデル図



※株式会社マルダイスプリングのビジネスモデルは、鋼材を仕入れ、関連会社の株式会社マルダイスプリング養老工場にてバネ（コイルばね、線細工品等）を製造し、製品を自動車部品（内装）製造業者をメインに販売している。また、パートナー企業に委託し、多彩な加工も行う。

(5) 経営理念

社是	ポリシー
私達は、大いなる存在とその摂理への感謝の心を持ち、プロの道を歩むことを通して、自由闊達な人間集団となり、業界(お客様・仕入先様)・地域・社会へ奉仕します。	お客さま第一 活性・創造・熱意・誠意 心よりの語り合い

～社長メッセージ～

人と人の出会いが命です

マルダイスプリングは、社是にある「お客様、仕入先様、地域・社会へ奉仕します」この想いを礎として、最新の設備を備えた工場を維持し、求められる資格認定にもチャレンジしています。

(ISO9001,ISO14001,JIS Q 9100 認定取得済)

「一つ一つの事柄を大切にし出会い、その出会いを和で結んでいく」培ってきたのはそんな風土。常に新しいことにチャレンジし続ける、深化成長を遂げられる会社でありたいと願います。

世界が進むスピードに劣らず成長し続ける会社。マルダイスプリングはスプリングを供給させていただくことで微力でもお役に立てる会社であり続けます。

2. 事業内容

圧縮コイルばねなど各種スプリングの設計、開発、製造販売を行っている。主な製品である板バネ、コイルばねは自動車製造に不可欠な部品であり、販売先の主体は自動車製造業である。このほか、電気機器製造業、産業機械製造業、医療関連、家庭用雑貨関連業など、100 社を超える販売先を有する。

業歴 66 年の中で培われたコイルばねの分野における確かな技術力から、業界内の知名度は高い。

2013 年に航空機分野へ参入し、2021 年 5 月には航空・宇宙・防衛機産業に特化した品質管理マネジメントシステムに関する国際規格「JISQ9100」の認証を取得した。

(1) 熟練スタッフと最新鋭の装備

熟練のスタッフによりクオリティの高いスプリングの開発・製造を行っており、現在では珍しい手作業でスプリング製作が可能な技術者も在籍し、1 点もののスプリングから量産物まで幅広く対応可能であり、顧客の要望に応える体制が確立されている。また、生産拠点の株式会社マルダイスプリング養老工場には最新鋭の自動機器を装備し量産体制も完備し、多種多様なスプリングを小ロットから大量生産まで幅広く対応している。

ISO9001・ISO1400 の認証取得により「品質の向上」と「環境問題」に対して、お客様に安心・満足を提供できるよう取組んでいる。

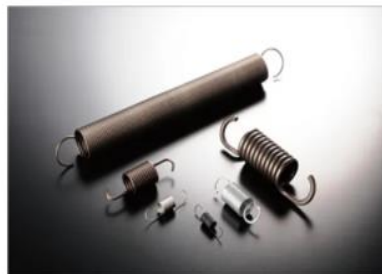
長年の業歴の中で培った確かな技術力と生産拠点の生産能力の高さから、取引先との強固な信頼関係を構築し、企業規模問わず 100 社超の取引先を有する。

【当社製品例】



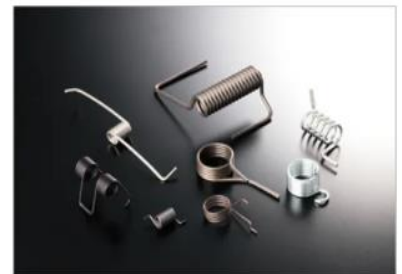
圧縮コイルばね

圧縮荷重を受ける用途に使われます。
円筒形状のほか、円錐形、楕円形などもあります。



引張りコイルばね

基本的に両端末のフックを引っ張って使われます。
様々な引っ張り荷重を受ける用途で使われています。



ねじりコイルばね

コイル状の形状から伸びる両端の腕を持つコイルスプリングで、腕の角度の変化による力を利用しています。



薄板ばね・プレス品

鉄、ステンレス、銅、洋白、黄銅、りん青銅等の材料で必要に応じた形状に加工します。



切削品・冷間鍛造

NC複合自動盤を主力として、特殊ねじ等も加工します。



その他（線・棒細工・溶接部品）

線材、棒材を多種多様な形状に加工します。

【製品使用例～自動車部品】



(2) きめ細やかな対応

当社は、営業・開発、技術・製造における理念を「どんなニーズにもきめ細かく対応」とし、製品を必要とするすべてのお客様、また多様化するニーズに応えるため開発営業でスピーディーに対応している。

創業以来、バネの製作工房を持ち、“まちのばね屋さん”として本社 1 階にバネのショールームを設け、バネに関する相談や、見積等の対応を行っており、「定尺バネ、規格バネ」をはじめ様々なバネを 1 個から販売している。

➤ 当社の営業・開発、技術・製造における理念

どんなニーズにもきめ細かく対応

私たちの製品をご使用されるすべてのお客様が、社会に対して素晴らしい商品を創造し、供給されますために私たち一人ひとりが、日々新たに変わり続け、知識や技術の向上は勿論のこと、何よりも、人間として深化、成長を大切にします。

1. お客様のご要望を、心を込めてお聞きし、迅速、かつ誠実にお応えします。
2. 関わりを耕し、響働の輪を広げ、納期管理、品質管理の同時達成を目指します。
3. 多くのお客様に奉仕できる様に、常に製品原価を引き下げる努力をします。
4. 創造力を鍛錬し、時代の最先端技術を駆使し、お客様のご要望にお応えします。
5. 製品を作る「匠」としての、販売に携わる「商人」としての、誇りを大切にします。
6. 以上の目的を達成するため、私たち一人ひとりが、日々新たに変わり続け、知識や技術の向上は勿論のこと、何よりも、人間として深化、成長を大切にします。

(3) 従業員育成の取組み

当社は、従業員の育成に力を入れており、従業員一人ひとりに年間教育計画を策定している。教育にはサブスク型のオンライン研修を活用し、コンテンツの視聴等による知識向上に役立てている。年間教育計画ではオンライン研修の 4 件受講を目標としており、上長が部下育成に必要と判断して受講推奨するもの、従業員が自己研鑽として選択するものに区分され、教育方針や目標が共有できる構成としている。また、年 2 回の個人面談を行い、計画の進捗把握や目標達成に向けた指導・フォローの場を設けている。

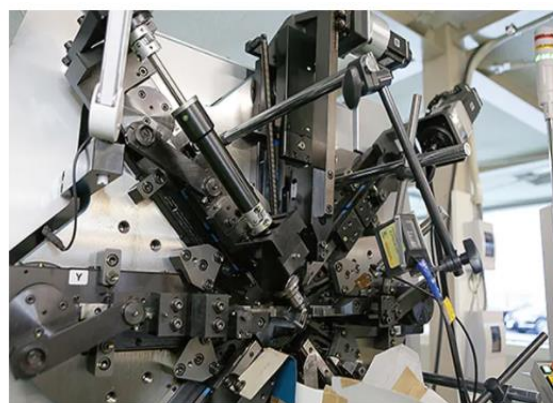
技術面においては OJT を基本としながら、知識習得の 1 つの手段として、金属ばね製造技能士 2 級資格取得を推奨している。国家資格の金属ばね製造技能士の資格保有者も在籍している。

【保有資格（一部抜粋）】

資格名称	資格者数 (当社)	資格者数 (養老工場)
金属ばね製造技能士線ばね製造作業 1 級	1 名	2 名
金属ばね製造技能士線ばね製造作業 2 級	8 名	5 名

このほか、業務上事故発生率を低減するため、営業社員を対象に運転適性検査を実施し、運転技術の見直しのためにドライビングスクールへ通う機会を提供したり、個人の PC スキル向上のためマイクロソフトオフィスエクセルスペシャリストの取得を推奨するなど、多方面からの育成を積極的に行っている。

【工場内写真】



3. ESG・SDGs の取り組み

株式会社マルダイスプリングは、SDGs の達成に向けて積極的な活動を展開している。

2020 年 10 月より SDGs の達成に向け取り組みを開始し、品質管理、製造管理、自然環境への配慮などさまざまな側面において更なる顧客満足を目指すべく、改良・改善につながる取り組みを継続している。

(1) CO2 排出量削減に向けた取り組み

2021 年 8 月に「再エネ 100 宣言 RE Action」へ参画し、2021 年 10 月には工場で使用する電力を実質再生可能エネルギーへ切替え、CO2 排出量を実質ゼロとした製造体制を確立している。また、HV 車の導入を進め、保有車両のうち 40%を HV 車に切替えた。クールビズやウォームビズの推進、LED 照明の導入、事務所や食堂の休憩時間の消灯徹底など電気使用量の削減に向けた取り組みを行っている。

社内緑化にも力を入れており、植物の植え込みや社屋の屋上緑化を行っている。さらに、屋上は植物中心の空間から従業員が休息できるテラスへと転換し、従業員満足度の向上にも貢献している。

【再エネ 100 宣言】



再エネ100宣言
RE Action

【屋上緑化】



(2) 地域貢献

養老工場では、近隣の小中学校の生徒向けに工場見学会を開催している。小学生には見学を中心に、中学生には製造過程の体験を通じた学びの機会を提供している。また、近隣の工業高校の学生ヘインターンシップを行い、さらにはインターンシップ学生の採用を通じた地域雇用の創出に貢献している。

(3) 働きがいのある職場環境の構築

当社の定年年齢は 63 歳であるが、定年を迎えた後も希望者はパート社員として 70 歳まで働き続けられる就労環境を整えている。また、女性従業員比率は現在 30%となっている。ただ、営業職は男性のみであるため、今後は女性営業職を誕生させたいと考えている。当社グループ会社の養老工場における女性従業員比率は 50%と高い。地元人材を中心とした女性のパート従業員が多いことが要因であるが、引き続き比率を維持するとともに地域雇用の創出にも貢献していく。

また、2023 年 3 月に全国健康保険協会愛知支部が展開する「健康宣言」事業に参画し、健康宣言チャレンジ事業所の認定を受け、健康経営の推進にも力を入れている。2024 年度中に健康経営優良法人の認証取得を目指している。

(4) 品質向上の取組み

品質向上に向け、工程内不良発生件数の年間削減目標（2023 年度は前年比△5%）を策定している。さらに各課における目標も設定し、毎月発生件数を把握し削減に努めている。この取組みは廃棄物削減にもつながるものであり、発生件数ゼロを目指し取り組んでいく。

従業員の改善提案も活発に行われており、毎月改善提案事例報告書として展開し、改善のポイントや効果を共有している。事例の展開を行うことで、新たな気づきや改善のきっかけにも寄与している。

また、改善だけでなく「ヒヤリハット報告書」として、業務中にヒヤリとしたことを、いつ・どんな時に・原因、そこから得られた教訓を報告し、対策の必要可否を検討することで業務中の事故防止につなげている。

改善事例提案報告書

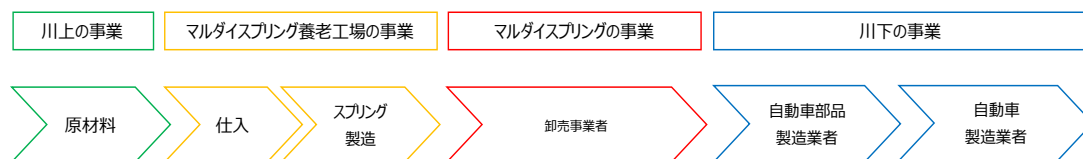
テーマ: 単発試作検査記録の項目追加と保管方法の改善	
改善前	改善案・改善後
単発で同じ製品が繰り返し発注された際、前回の記録として残してある図面をどこに保管したか探すのに時間がかかってしまっていた。	単発試作検査記録に図面保管場所の項目を追加し、図面がどのファイルに保管してあるか分かるようにした。
ファイル内でトーション・押しパネ・引きパネと分けていたが枚数が増えファイル内でも探すのに時間がかかってい	品番があるものは頭文字で分け、品番がない物は線径で分けるようにして探しやすくした。
改善のポイント	効果
単発検査記録を見れば誰でもどこに保管してあるか分かるようになった。	図面が何処に保管してあるかすぐに分かり、今まで探していた時間が短縮できる。

ヒヤリハット報告書

いつ (通称) 2023年 7月 29日 (水曜日) 午後 15時 00分頃									
どこで (部署名・作業名・場所)	AN-005 前	どうしていた時	製品を回収した時						
ヒヤリとした時 電線出口のフタを半開きにして、熱処理後の製品を回収していた際、フタが風で閉じ、顔に当たった。火傷をする可能性もあった。									
【原因】 熱場の下の時に内容を記載、熱場の時は斜線									
環境に問題があった	設備・機器等に問題があった	作業方法に問題があった	自分自身に問題があった						
			6						
【教訓】 未記入の場合は斜線		該当する番号を選択して記入							
製品の回収時は電気のフタは完全に閉めて、顔を近づけないようにする。		1 よく考え(頭こえ)なかった 2 焦が付かなかった 3 忘れていた 4 知らなかった 5 深く考えなかった 6 大丈夫だと思った 7 あわてていた 8 不愉快なことがあった 9 寝れていた 10 無意識に手が動いた 11 やりこめなかった 12 体のバランスを崩した							
対策の要否 対策実施の進捗の記録									
要 / 不要	<table><tr><td>工務員</td><td>確認</td><td>確認</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>			工務員	確認	確認			
工務員	確認	確認							

4. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析



(2) インパクトマッピングによるインパクト分布

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社グループおよび同社グループの川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」と「ネガティブインパクト」を想定する。

同社の事業については「他に分類されないその他の金属製品製造業」「建築材料、金属類及び配管・暖房設備器具卸売業」「廃棄物・スクラップ及び他に分類されないその他の製品の卸売業」を、川上の事業については「第一次鉄鋼製造業」「金属及び金属鉱石卸売業」「金属の処理・塗装・機械加工業」「金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業」を、川下の事業については「プラスチック製品製造業」「自動車部品及び付属品製造業」「自動車製造業」をそれぞれ適用し、インパクトの検証を実施。同社グループ事業については、該当するすべてのインパクトカテゴリについて分析する。川上・川下のカテゴリについては、同社グループが関与できる部分を分析対象とする。

分布図中の「赤色」は重要な影響があるカテゴリ、「黄色」は影響があるカテゴリを示す。

(3) インパクト分布図

①当社の川上における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業							
	第一次鉄鋼製造業 【2410】		金属及び金属鉱石卸売業 【4662】		金属の処理・塗装・機械加工業 【2592】		金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業 【2591】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水								
食料								
住居								
健康・衛生								
教育								
雇用								
エネルギー								
移動手段（モビリティ）								
情報								
文化・伝統								
人格と人の安全保障								
正義・公正								
強固な制度・平和・安定								
水（品質）								
大気								
土壌								
生物多様性と生態系サービス								
資源効率・安全性								
気候								
廃棄物								
包括的で健全な経済								
経済収束								

川上の事業では、主に環境面でのネガティブインパクトが発現する。

当社は工程内不良率の削減に努め、原材料ロスの削減に貢献することで川上の事業における資源効率・安全性のネガティブインパクト低減を図っている。

②当社における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	当社の事業					
	他に分類されないその他の金属 製品製造業 【2599】		建築材料、金属類及び配管・暖 房設備器具卸売業 【4663】		廃棄物・スクラップ及び他に分類 されないその他の製品の卸売業 【4669】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段（モビリティ）						
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義・公正						
強固な制度・平和・安定						
水（品質）						
大気						
土壌						
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で健全な経済						
経済収束						

当社の事業では、「包括的で健全な経済」のカテゴリにおいて、当社の確かな技術力と小ロットから大量生産まで対応できる量産体制により製品を安定供給することで、自動車製造のサプライチェーンを支えるとともに、人びとの移動利便性向上に貢献し、ポジティブな影響を与えている。

一方で、環境面の「水（質）」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「気候」「廃棄物」「資源効率・安全性」のカテゴリにおいては、ネガティブインパクトが発現し、製造プロセスからの汚染（大気汚染・水質汚染）や温室効果ガスの排出、廃材等の発生が健康被害をもたらす可能性が指摘される。

環境面のネガティブインパクトに対し、ISO14001 の認定を取得して環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷の低減に向けた社内体制を整えるほか、実質再生可能エネルギー100%の電力を使用した製造販売体制の構築にも取り組んでおり、ネガティブインパクトの低減に努めている。また、工程内不良件数を低減するべく年間目標を策定し、廃棄物削減につながる取組みを行っている。

「雇用」のカテゴリにおいては、従業員一人ひとりの教育計画を策定しスキルアップにつなげていくことで従業員の働きがいのある職場環境づくりに努め、ポジティブな影響の拡大を図っている。また、業務の改善提案を活

発に行い事故発生件数削減に努め、安心・安全に働くことができる環境を整備しネガティブな影響の低減を図っている。

なお、当社事業とは関連しないカテゴリ「住居」「健康・衛生」「エネルギー」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」「経済収束」におけるポジティブインパクトは分析対象外とする。

③当社の川下における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川下の事業					
	プラスチック製品製造業 【2220】		自動車部品及び付属品製造業 【2930】		自動車製造業 【2910】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段（モビリティ）						
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義・公正						
強固な制度・平和・安定						
水（品質）						
大気						
土壌						
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で健全な経済						
経済収束						

当社の川下の事業においては、「移動手段」「雇用」「包括的で健全な経済」のカテゴリにおいてポジティブインパクトが期待できる。当社製品が自動車製造の礎となり、移動利便性の向上に貢献しているとともに、自動車産業の形成に大きく寄与している。

「水（質）」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「気候」「廃棄物」等の環境面においては、製品の製造や輸送のプロセスで、水質・大気汚染、生態系の破壊、温室効果ガスの排出、廃材等の廃棄物の発生等がネガティブインパクトとして発現する。当社は EV 車向けの部品も製造、納入しており、自動車製造における「気候」のネガティブインパクトの低減に貢献している。

(4) 特定したインパクト

主要業種の分析結果として、主に「移動手段」および「包括的で健全な経済」のポジティブインパクトの拡大が期待できる。自動車部品製造に不可欠な部品（板ばね・コイルばね）の提供を行うことで、自動車用部品（アシストグリップ・オイルキャップなど）の製造に貢献し、ひいては自動車製造業界を支え、人びとの移動利便性向上に貢献している。

環境面におけるネガティブインパクトにおいては、認証取得による環境マネジメントシステムの構築、実質再生可能エネルギー100%の電力への切替による製造工程のCO₂排出量の削減や、廃棄物削減や適切な処理などに取組むことで環境負荷低減を図っている。

上記分析を踏まえ、KPIを設定する。

(5) 国内のインパクトニーズ

下記に示したのは、「SDGs インデックス&ダッシュボード 2023」を参照したものであり、「SDGs 達成を緑色」、「課題が残っているSDGsを黄色」、「重要な課題を橙色」、「主要な課題を赤色」としている。

「4. インパクトの特定」において中京銀行が特定した株式会社マルダイスプリングのインパクトと対応するSDGsのゴール「8, 12, 13」について、多くが課題のあるゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズと整合的である。



特定したインパクトカテゴリー	対応するSDGs
雇用	8「働きがいも経済成長も」
移動手段、包括的で健全な経済	9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
資源効率・安全性、廃棄物	12「つくる責任つかう責任」
大気、気候	13「気候変動に具体的な対策を」

（６）特定したインパクトに対する中京銀行の方向性との確認

中京銀行は、経営ビジョンにおいて「地域社会に貢献する」ことを"私たちの使命"として定め、本業を通じた環境・社会課題の解決と持続的成長を両立すべく、SDGs や ESG に取り組んでいる。上記分析で特定した株式会社マルダイスプリングの事業活動によるインパクトは、中京銀行のサステナビリティの方針と整合的である。

5. 測定する KPI（2030 年に向けた目標）

中京銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理し、2030 年に向けた目標として KPI を設定した。

（1）働きがいのある職場環境づくり

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大 社会面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連する SDGs	
対応方針	社員育成 健康経営の推進 安心・安全に働ける職場環境の整備
KPI・目標	①2030 年までに金属ばね製造技能士線ばね製造作業 1 級の資格を 2 名取得する ②2024 年までに健康経営優良法人の認証取得 ③災害発生件数ゼロを目指す

（2）環境に配慮した取組みの推進

項目	内容
インパクトの種類	環境面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「大気」「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	 
対応方針	環境負荷の低減
KPI・目標	①2030 年度 2 月期までに HV 車の保有割合を 50%にする （2023 年 2 月期の保有割合：40%） ②2030 年 2 月期までに工程内不良件数を 0 件にする （2023 年 2 月期の件数：8 件） ③ISO140001 の更新・維持

(3) 品質維持・向上による成長促進

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大 経済面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「移動手段」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	9 産業と技術革新の基盤をつくろう  12 つくる責任 つかう責任 
対応方針	高品質かつ安定的な製品の供給
KPI・目標	①ISO9001 の更新・維持 ②2030 年 2 月期までに売上高を 70%増加させる(2023 年 2 月期比)

6. インパクトの管理体制

株式会社マルダイスプリングは、最高責任者を木村社長として組織的にインパクトの管理体制を整備している。また、木村社長を中心に各事業部と連携しサステナビリティ経営の充実に向けた施策の検討及び実施・検証する体制を構築している。

「中京ポジティブ・インパクト・ファイナンス」におけるインパクトについては、木村社長と総務部長が中心となり、KPI の達成に向けた施策を展開する。

【管理体制】

最高責任者	代表取締役社長 木村 好裕
管理責任者	光引 淳
担当部署	総務部

7. モニタリング方法

「中京ポジティブ・インパクト・ファイナンス」で設定した KPI の進捗に対するモニタリングは、インパクト管理担当部署と株式会社中京銀行の担当部署（営業店および営業推進部ソリューション営業グループ）が年 1 回以上の協議にて確認する。

協議において、株式会社マルダイスプリングは設定した KPI の達成度について情報を開示する。株式会社中京銀行は、達成度・進捗度を確認・検証したうえで、必要があれば KPI の修正を検討し、同社に対して適切な助言を行い支援する。

また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センター（R&I）による包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

本件については、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」に準拠したファイナンスであり、株式会社マルダイスプリングの事業活動がポジティブインパクトの増大およびネガティブインパクトの低減につながることを確認した。また、KPI 達成に向けた取り組みやモニタリングを通じ、持続的な ESG および SDGs への貢献につながる取り組みであることを確認した。

以 上



セカンドオピニオン

中京銀行 ポジティブインパクトファイナンス

2023年9月29日

株式会社マルダイスプリング

ESG 評価本部

担当アナリスト：新井 真美

格付投資情報センター（R&I）は中京銀行がマルダイスプリングに対して実施したポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブインパクト金融原則（PIF 原則）に適合していることを確認した。

R&I は別途、中京銀行のポジティブインパクトファイナンス実施体制が PIF 原則に適合していることを確認している¹。今回のファイナンスに関して中京銀行の調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスが PIF 原則に準拠して適用されていることを確認した。

中京銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

(1) 融資先

社名	株式会社マルダイスプリング
所在地	名古屋市
設立	1956 年 11 月
資本金	10 百万円
事業内容	スプリングの設計・開発及び製造販売、金属加工部品及びそれらの組み立て加工品の製造販売
従業員数	17 名（2023 年 2 月末時点）

(2) インパクトの特定

中京銀行は融資先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析し、特定したインパクトカテゴリを SDGs に対応させてインパクトニーズを確認した。また、当社の事業活動が影響を与える地域におけるインパクトニーズとの整合性について、持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）が提供する SDG ダッシュボードなどを参照し確認した。

(3) インパクトの評価

中京銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理して KPI を設定した。ポジティブインパクトは SDGs 達成に寄与する取り組みとして追加性があると判断した。また、中京銀行のサステナビリティの方針と整合的であることを確認した。

¹ 2023 年 4 月 21 日付セカンドオピニオン「＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」
https://www.ri.co.jp/news_release_suf/2023/04/news_release_suf_20230421_jpn_1.pdf

① 働きがいのある職場環境づくり

インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大 社会面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
対応方針	・ 社員育成 ・ 健康経営の推進 ・ 安心・安全に働ける職場環境の整備
KPI・目標	・ 2030 年までに金属ばね製造技能士線ばね製造作業 1 級の資格を 2 名取得する ・ 2024 年までに健康経営優良法人の認証取得 ・ 災害発生件数ゼロを目指す

② 環境に配慮した取り組みの推進

インパクトの種類	環境面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリ	「大気」「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	 
対応方針	環境負荷の低減
KPI・目標	・ 2030 年度 2 月期までに HV 車の保有割合を 50%にする（2023 年 2 月期の保有割合：40%） ・ 2030 年 2 月期までに工程内不良件数を 0 件にする（2023 年 2 月期の件数：8 件） ・ ISO14001 の更新・維持

③ 品質維持・向上による成長促進

インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大 経済面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリ	「移動手段」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
対応方針	高品質かつ安定的な製品の供給
KPI・目標	・ ISO9001 の更新・維持 ・ 2030 年 2 月期までに売上高を 70%増加させる（2023 年 2 月期比）

(4) モニタリング

中京銀行は融資先の担当者との会合を少なくとも年に 1 回実施し、本 PIF で設定した KPI の進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い融資先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以 上

【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。